



病歴聴取や説明、
治療同意で使える英語を
バラエティー豊かな
例文で学べる

評者 川名正敏

東女医大特任教授・総合診療科



医療英会話 キーワード辞典 そのまま使える 16000 例文

森島祐子、仁木久恵、
Flaminia Miyamasu=著

定価:本体 3,800 円+税/B6 判・776 頁/医学書院/2019
[ISBN978-4-260-02813-4]

最近の外国人旅行者の増加、そして今後の外国人労働者の受け入れ拡大が議論されるなか、医療現場における外国人への対応は喫緊の課題になっています。

筑波大の森島祐子先生らが2006年に発行された本書の兄貴（姉貴）分である『そのまま使える 病院英語表現 5000』は、外来・救急現場・病棟などさまざまな場所で大活躍しており、私もこの本の大ファンの1人です。外国人の患者さんに対して最初のコンタクトをとる際に、受付・外来診察室・手術室など、それぞれの関連ページを開いてそこに記載されている文章を読み上げれば（場合によってはお見せすれば）よいということで、多職種の人たちがあまりちゅうちょせず外国人の患者さんとのコミュニケーションをとれるようになってきました。

次のステップは、もう少し詳しい病歴を聞いたり、やや複雑な病態生理を説明して検査や治療の同意を得たりということになるのですが、この場面で行くつかのキーワードから英語の文章を発展させていくことがなかなか難しいことがありました。

医療者が会える場面ごとに、そのまま使える例文が満載

森島先生が仁木久恵先生、Flaminia Miyamasu 先生と周到な準備のもと集大成として発行された本書『医療英会話キーワード辞典—そのまま使える 16000 例文』は、このような場面でもとても便利に使うことができます。

たとえば、「きょうしんしょう 狭心症」の項では「狭心症 angina (pectoris)」の表記の次に、

- 狭心症は心臓への血液の供給が減ることによって起こります。

Angina is caused by a decrease in blood supply to the heart.

という例文が入っていて、患者さんにはこのような表現をすればいいんだ！とすぐにわかります。

この辞典は、いわゆる“医学用語辞典”ではありません。医療機関で英会話をする時によく出てくる普通の語句が大変多く収載されていて、それを病院ではこのように使うという例文が、実に臨場感をもった形で紹介されているのです。たとえば「きょうゆう 共有する」の項では、次のような例文が載っています。

- 患者と医療者間で臨床上の情報を共有する。Patients and physicians share clinical information (with each other).
- この冷蔵庫は共有になります。This is a communal refrigerator for use by patients.

また、「こまる 困る」の項では、

- 何かお困りのことがありますか（心配事があるか）？

Is anything bothering [troubling] you? / (何か問題があるか) Is anything wrong?

- 排尿のコントロールに困っていますか？ Do you have (any) difficulty (in) controlling your bladder?
- 便秘で困っているのですか？ Do you have any trouble with constipation?
- 困ることがあれば、相談に来てください。

If you have any problems [If you're ever in trouble], feel free to come and talk with me.

- それは困りましたねえ That's too bad.

というように、医療機関内に特化してはいますが、実にバラエティーに富んだ例文が紹介されているのです。

このような使い方をしていると、ある単語を調べたあとに、つい傍の単語を読み込んでしまうという、紙の辞書ならではの良さを久しぶりに感じることができました。

さらに、この辞典は英文の紹介状・診断書から症例報告や臨床論文を書く際にも威力を発揮します。最近、海外赴任する方の紹介状を作成したのですが、この表現で“適切”かどうかを確認するのに本書は大変役立ちました。

本書を医師・看護師をはじめとする医療スタッフのみならず、医学生・看護学生からヘルスケア関連企業の方にも必携の1冊としてお勧めします。

